

第6回

優秀な学生につき、よろしくお願ひします ——どこが？ どうして？

あお くに まさ やす
青谷正妥
京都大学留学生センター



日本の悪しき慣習

「×君は名門〇〇大学を優秀な成績で卒業されたわが社のホープであり…」という結婚式のお約束スピーチ。「お宅の会社には有名大学出のホープが多いんですね。従業員数とどちらが多いですか」と皮肉の一つもいいたくありませんか？ これと同様に、日本では推薦状も形式に過ぎないことがよくあります。しかし、「優秀な学生につき、よろしくお願ひします」という一行だけでまったく問題ない日本の慣習が、アメリカの大学院に願書をだすときには大きな障害になりえます。

問題は大きく分けて四つ。志願者本人が推薦状の大切さを認識していないこと、先生が推薦状の大切さを認識してくれていないこと、学部生のサマーリサーチなどの機会が少なく推薦者を見つける機会に恵まれないこと、アメリカを知り、アメリカ人にも知られている先生が多くはないことです。番外として、英語で書いてもらう困難さも加わるのですから、まさに五重六重の苦しみですね。

それでも、アメリカの大学院がどれだけ推薦状を重んじるかを知っていれば、決して疎かにはできないと感ずるはずですので、まずそこから話を始めましょう。

Step1：自分自身の意識改革

学部の成績は国や大学のシステムに大きく影響されるので、入学希望者の能力を測る共通の物差しはまったくなく、いかに diversity を重んじる国でもこれではたまりません。

世界中の大学事情・教育事情に通じることなど不可能ですので、勢い同業者に頼ることになります。同業者とは、もちろんその国の大学の先生です。

以前、Harvard の Shlomo Sternberg 先生は、“It is just a matter of who we know can write a strong letter for that student (私たちの知っている人のうち誰が、推薦状で強く推してくれるかだけが問題だ)” とはつきりとおっしゃっていました。とくに、レベルも成績の基準もわからない外国人の場合、自分の分野の学者の評価を信用するのは非常に理に適っています。アメリカの推薦状は決して形式ではないのです。

Step2：先生の教育

推薦状の大切さは、日本の先生方の想像を絶するものだと思いますが、アメリカの先生たちは、学生の役に立つ推薦状を書くのは当然自分たちの仕事の一部だと考えています。ですから、そうでなくても分が悪い日本人学生が、それに負けにくいらいの立派な推薦状をもらうことは、非常に難しくても肝要なのです。たとえばこの記事を見せるのも一つの手ですが、先生の頭に推薦状の大切さについての知識を焼き付けること、しかも時間を取らずにそれを達成することが必要でしょう。

志望校の特徴なども、自分で調べた内容を summary 形式で先生に説明するのがよいでしょう。箇条書きで構いませんから、忙しい先生のために要点だけを伝えます。1 頁を超えることなどもってのほかと心得ましょう。

Step3：整合性のチェック

そのうえで、相手の大学の事情と自分の事情を先生に説明します。statement of purpose と推薦状のあいだの整合性が重要です。必ず自分の statement of purpose の内容を説明したうえで、その本文と要約（箇条書きがよい）を渡してください。せつかくの推薦状が的外れにならないように、相手校の情報も勘案して書いていただかなくてはなりません。とくに英文の推薦状の場合、日本では「じゃあ、君が書いて来なさい」といわれることも多いようですが、推薦者に直接問い合わせが来ることもありますから、しっかりと自分が書いた推薦状の内容を先生に伝えておくほうが安全です。

理想の推薦者像

学生を個人的かつ長期にわたって知っていて（講義だけでは当然ダメです）、アメリカにおける推薦状の重要性を認識していて、海外における知名度の高い人が理想の推薦者といえるでしょう。向こうが「こういう立派な学者でアメリカの事情にも明るい人が、学生をよく知り自分たちのプログラムも理解してくれたうえで推薦してくれているのだから、まちがいはない」と考えてくれるような推薦者がよいわけです。

アメリカの事情にも明るいという印象を与えるためには、留学・滞米経験など先生の経歴で該当するものを説明したり強調したりしてもらうのが有効ですし、相手先の大学のプログラムをよく知っていると確信させるためには、その大学の特殊性（たとえば、重点分野など）を推薦状に盛り込んでもらうのがよいでしょう。

「お入れなさい」の推薦状

『彼が最初に私の講義を取ったのは3年前、彼がまだ1年生のときでしたが、稀に見る才能と勤勉さが目に留まり、私の下での卒業研究を希望したときにも快諾しました。本年4月より研究指導をしておりますが、学問への興味と真摯な姿勢、研究における方向感覚は、私が30年にわたって指導してきた学生のなかでも明らかにトップクラスです。これまでに当該分野の基礎科目と応用科目を履修して



Inflation of Grades

海外の大学の成績を比較評価するのが難しいのは当然ですが、実はアメリカ国内の大学でも事態は複雑です。それはおもに customer service（顧客サービス）に熱心な私立大学が多いせいですが、たとえば、地方の無名公立大学で GPA が高い人と、Stanford などの名門私立大学で高い GPA を誇る人とは、どちらが本当に勉強ができるのでしょうか。

学生の平均レベルなら、明らかに Stanford ですが、実際には、高い GPA は地方の大学のほうが取りにくいとされています。というのも、年間 300 万円と高い授業料を払ったうえに、GPA が低くなってよい大学院に入れないというのでは、親たちが納得しないからです。とくに 3, 4 年生のクラスでは 3 分の 1 が A などという例は当たり前で、Grade Inflation（成績の高騰）とよく非難されます。

ちなみに、州立の UC Berkeley とその近所にある私立の Stanford を比較すると、Berkeley は安い授業料と低い GPA のオプション（a low tuition and low GPA option）だといわれたりします。もちろん、家を売らずに授業料が払えるオプションでもあるのですが。

おり、最近はお〇〇の実験に打ち込み△△の成果をあげるなど、着々と研究を進めています。将来の希望は貴学の得意な××分野の研究者になることで、そちらで指導を受けることは彼にとって非常に有益であろうと考えます。私自身が留学経験者でありアメリカの大学院を直接体験しています。また自分の専門の関係上、貴学の優れた研究も先生方もよく存じております。そのような個人的経験と彼の能力や人間性、さらには貴学のレベルと研究分野から総合的に判断して、彼は貴学にとっても大きな財産になる学生だと確信しています。ぜひ、前向きにご検討ください。』

こういう風には書くと、TV ドラマ『スカイハイ』の釈ちやんに「お入れなさい」といってもらくらい効果があるでしょう、たぶん。

「お行きなさい」。